

2. 地域に顔の見える運動、情報発信の取り組み

「働くことを軸とする安心社会」の実現に向けては、**連合運動の社会的認知度を高め、国民的な論議を呼び起こし、運動の波及効果を高めていくことが必要です。社会性の高い活動に、引き続き取り組むとともに、適時適切な情報発信に努め、地域に顔の見える運動を推進します。**

(1) 労働相談の対応

- ① 広告媒体を用いた周知や街宣活動などにより「労働相談ダイヤル」の地域への一層の定着をはかるとともに、認知度向上のための広報ツールの研究を行います。
- ② 労働相談の担い手の育成と体制強化をはかるため、連合本部や（公財）全国労働基準関係団体連合会（全基連）主催の研修等に参加し、実務知識の習得に努めます。
また、全国一斉集中労働相談の実施にあたっては、対応能力の向上をはかる観点から、構成組織・地域協議会等に対して積極的な参加を呼びかけます。
- ③ なんでも労働相談の外国語対応のあり方については、今後、議論していきます。

(2) 福祉・教宣活動の取り組み

- ① 連合岡山の活動を組織内外に周知し、連合運動に対する理解促進をはかるとともに、労働組合の社会的影響力の拡大に取り組むため、連合岡山ニュースやホームページ、Facebook等の広報ツールを活用し効果的に発信します。また、労働相談を中心としたテレビCMのスポット放送を検討、実施します。
- ② 地域に根ざした顔の見える運動の一環として各地域協議会からニュースの発行とFacebookの投稿を引き続き実施します。また、地協ニュース、Facebookを連合岡山ホームページへ掲載し、全体での波及効果を高めていきます。
- ③ 学習機会の提供や次代を担う労働運動のリーダー育成に向けて、連合岡山の「教育・研修の基本方針」を基軸に、時々的情勢も踏まえつつ、各種学習会・研修会を着実に実施します。
この中において、労働組合の存在とその役割、労働運動の意義などについて理解を深め、再認識するためにも「労働組合の歴史」に関する学習会の開催や、大学において単位認定科目の位置付けで講座全般の企画・運営に主体的に関わる「寄付講座」の開設も検討します。
- ④ 組合員福祉の一環として、こころの会との連携したメンバーズカードの利用促進に取り組みます。また、各種チケットの斡旋を行います。

(3) 地域協議会活動の取り組み

- ① 連合岡山は、連合加盟組合員や地域住民にとって、一番近い存在である地域協議会との密接な連携のもと「地域に根ざした顔の見える運動」の具現化に向けて取り組みます。
- ② 毎月、05日（れんごう）の日に合わせ、各地域協議会で行っている街宣活動において、弁士の派遣を含め、器材の準備等の支援を行います。

(4) 労働福祉団体との連携

- ① 各地域協議会と連携し、地域の労働者、生活者の相談拠点であるライフサポートセンターの運営を支援します。
- ② 労福協、ろうきん、全労済と連携し研修会の開催なども含め、労働者の生活支援に取り組みます。
- ③ 労福協の主催する学校等への「出前講座」を、積極的に支援していきます。